

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email: se-jcu@unicef.or.jp

ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

特集

女子教育の大切さ



世界子供白書2004

学校に行けない子どもは世界で1億2,100万人。その内訳は女の子が6,500万人、男の子が5,600万人。教育を受けていない女の子が男の子よりも900万人も多いのです。

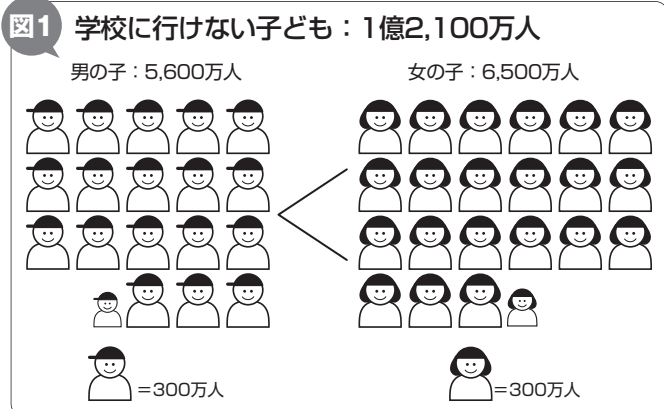
「世界子供白書2004」は“女子教育”がテーマです。女の子が置かれているきびしい現状を理解し、多くの人びとが女子教育についての問題意識を持つようと訴えています。



世界子供白書2004 UNICEF

1 ユニセフが直面する課題

—教育を受けられない多くの女の子たち



世界にはまだ、文字の読み書きができない人びとが大勢います。想像してみてください。文字を読めず、計算もできないとどんなことが起こってしまうか、困ってしまうか、どんな危険にさらされるか。

たとえば、薬を飲みたくても説明が読めなければ間違えた薬を飲んでしまうこともあります。子どもに一日何回、いくつ薬を飲ませればいいのか正しくわからなければ用法や量を間違え、とても危険です。計算ができなければお金を支払う時にだまされたり、おつりを間違えられてもわかりません。でも、私たちはそのような危険を感じたり、だまされたりすることはありません。教育を受けて、文字が読め、計算ができるからです。

子どものころにしっかりとした教育を受けていれば、生きていくために必要な知識や情報を自分の力で手に入れ、自立して生きていくことができるようになるのです。

すべての子どもが初等教育を受けるという事業を進める中で直面する大きな問題は、学校に行けない女の子が、男の子より非常に多いということです。

2 どうして学校に通えない女の子が多いの？

—女の子に対する伝統的な慣習や差別

世界の多くの社会には男女の役割を分ける伝統的な慣習や、男女の差別が残っています。女の子は早く結婚して家の中のことをするものだとか、家事をする女の子に学校の勉強は役に立たないという考え方が残っているのです。

貧しさも大きな原因です。きょうだいをすべてを学校に通わせるお金がなければ、男の子が優先されることが多くなります。女の子の多くが家族の生活のために働きに出されたりしています。

そのほかに、学校に女の子用のトイレがなかったり、女の子が差別を受けたりするなど、女の子が通いやすい学校がない場合があります。また、学校が遠く、通学路が危険だと、親は心配して女の子を学校に行かせないという理由もあります。 ※図2参照

3 なぜ、女子教育が大切なの？

—貧困から抜け出すこと、明るい未来への第一歩

教育を受ける子どもが増えることが国の経済発展を後押しする—この事実は数多くのデータからわかってきました。そして、女の子の教育に力を入れることは、もっとすばらしい効果を生むこともわかっています。長い期間にわたって女子教育に力を入れてきた地域、たとえば東南アジアなどでは、経済開発の水準がより高くなっているのです。女の子の小学校へ入学する割合が上がる

につれて、一人あたりの国内総生産も増えてきています。^{注1}

現状を改善しなければ、学校に行くことができない女の子は、学校での有意義な学びや友だちとの楽しい交流などを体験することなく過ごし、自らの能力を発揮する機会を失ってしまいます。

そして、貧困から抜け出すことができません。

※図3参照

注1：King, Elizabeth M. and Andrew D. Mason, Engendering Development: Through gender equality in rights, resources, and voices, World Bank and Oxford University Press, Washington D.C., 2001, p.88. 出典：世界子供白書2004

図2

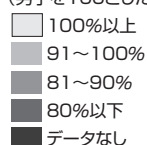
万人のための初等教育を実現する

ミレニアム開発目標

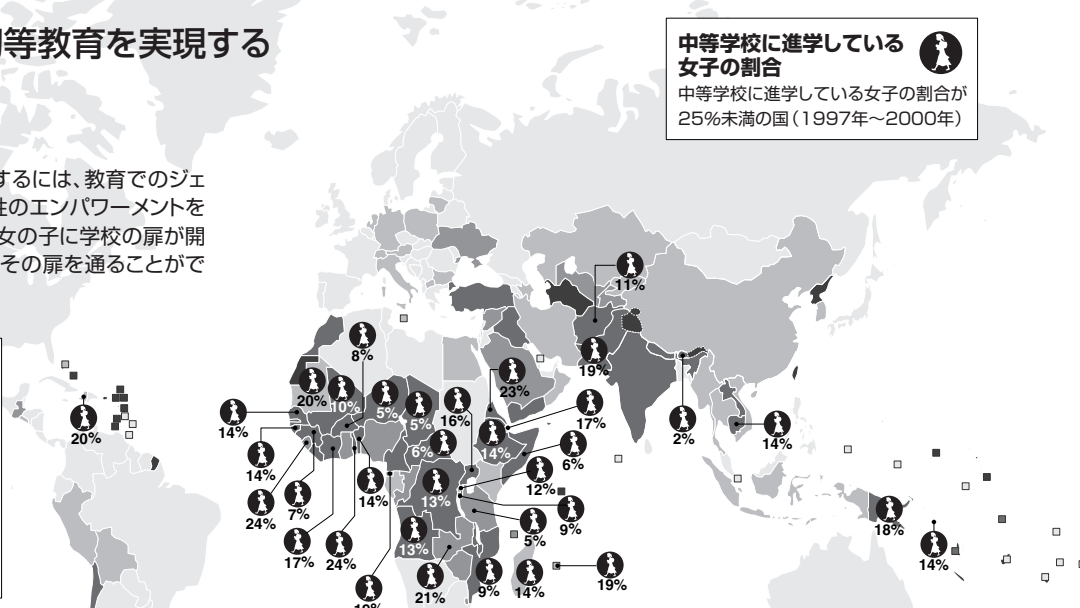
万人のための教育を達成するには、教育でのジェンダー格差をなくすこと、女性のエンパワーメントを推進することが重要である。女の子に学校の扉が開かれると、男の子も女の子もその扉を通ることができるようになるのである。

中等学校での男女比

中等学校への就学率
対男子比%
(男子を100とした場合)



この地図は、いずれかの国もしくは地域の法的地位またはいずれかの国境の確定に関するユニセフの立場を反映するものではない。点線は、インドとパキスタンが合意したジャンムー・カシミールのおおよその統治線を表したものである。ジャンムー・カシミールの地位の確定については当事者の合意が得られていない

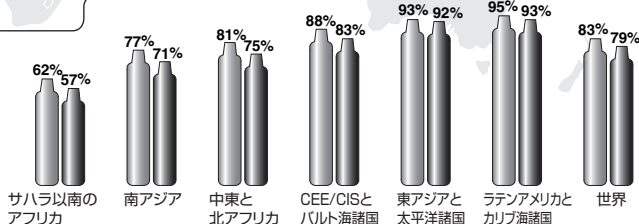


中等学校に進学している女子の割合
中等学校に進学している女子の割合が25%未満の国(1997年~2000年)

初等教育

初等学校に就学・通学している子どもの割合(%)
1996~2002年

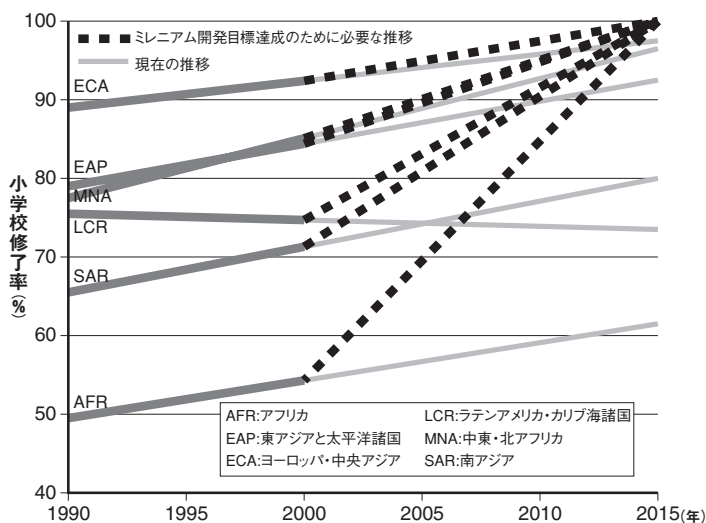
♂ 男子 ♀ 女子



出典：世界子供白書2004 ユニセフニュース200号

図3

小学校修了率の進展(1990年~2015年)



出典：世界子供白書2004

国連ミレニアム目標のひとつ、2015年までにすべての子どもが初等教育を修了するという目標を達成するためには、左記の表の点線にあるペースで子どもが学校に行けるようにならなければなりません。世界の人が、すべての子どもたちを学校に通わせようと決意し、取り組まなくてはならない大きな問題です。



©UNICEF/2003/ UNICEF-AFGHANISTAN-PREMFORS

教育はすべての子どもが持つ権利です。よりよい人生を生きるためにすべての子どもは学校で質の良い教育を受けなければなりません。その権利を持ってない多くの女の子たちの問題を解決しようとして「世界子供白書2004」は訴えています。

「女の子の教育以上に効果的な開発手段は存在しない」

コフィ・A・アナン 国連事務総長

「世界子供白書2004」

日本語版のお申し込み

郵便番号、住所、氏名、学校名(勤務先)、電話番号、必要な冊数を明記の上、(財)日本ユニセフ協会 学校事業部までハガキ、あるいはファックス(FAX: 03-5789-2034)でお申し込みください。1部まで送料・実費ともに無料です。